

新田岩松家「神功皇后縁起絵巻粉本」について

山中 康行

はじめに

図書館所蔵資料は文字情報が主体であり、媒体としては図書・雑誌や電子媒体資料等があり、それらの資料のかげにめだたないが重要な資料ある。「粉本」というのは、絵画の下書きです。図書館では粉本のような絵画資料は図書館員にとってはなじみが少なく、取扱いにも不慣れな資料です。本稿は1966（昭和41）年に書籍・古文書など一括して新田岩松家から、群馬大学に寄贈されたなかに含まれていた資料です。新田岩松家粉本「神功皇后縁起絵巻」は、原本が誉田神社（大阪府羽曳野市）に伝えられている。どのような経緯で地理的に遠く離れた上毛の地で下絵が作成されたのであろうか。1765（明和2）年（新田）岩松孝純の日記（源孝純年譜草稿）に、「正月六日 神宮皇后之下絵をなす」「三月八日 神功皇后之向像下絵をす」の記述があることから、このとき描かれたものと推測することができ、文字情報を確定（証明）裏付けることのできる貴重な資料である。

平成14年に整理をした新田岩松家粉本（注1）のなかに、他の粉本とは異なったほぼ大きさ（B4版大）のそろった31数枚の絵がある。そのうちの数枚は、三韓征伐を題材にしたものであったが、残りについて属性を明らかにすることができなかつた（注2）。その後調査を重ねた結果、この粉本のうち29枚が、「神功皇后縁起絵巻」（誉田本）（注3）の丁寧な模写途中の粉本であることが判明した。

1. 「神功皇后縁起絵巻」（誉田本）と「八幡縁起絵巻」（靱淵八幡神社本）

八幡大菩薩関連の縁起に八幡縁起絵巻がある。八幡縁起絵巻は、その祭神八幡神（注4）を描く絵巻である。伝承されている八幡縁起絵巻（「神功皇后縁起絵巻」）には、次の2系統の存在が知られている（注5）。

第1系統 靱淵八幡神社本（注6）、サフランシスコ本、奈多宮本、浜天神本。

第2系統 誉田八幡宮本（注7）、宇佐八幡宮本（外題：宇佐八幡宮縁起）、石清水八幡宮本（外題：石清水八幡宮縁起）、東大寺八幡本、由原八幡宮本。

両系統の主題や絵の構成、詞書には相違はあるが、それぞれ非常に大変似かよっている。しかし、画風にはかなり大きな相違が見られる。

1) 「神功皇后縁起絵巻」誉田本は、上下二巻からなる紙本、彩色絵巻物である。この絵巻は一つの縁起物語でありながら、内容は、上巻が異国遠征を題材とした戦記説話物語、下巻は応神天皇が八幡大菩薩となって現れる靈験譚（レイゲンタン）が中核となっており、内容が異なる二つの話題で構成されている。誉田八幡宮本（神功皇后縁起絵巻）、宇佐八幡宮本、石（岩）清水八幡宮本、にはいずれにも永享五（1433）年4月21日に足利義教が新写奉納した由を誌

す奥書をもち、その構成詞絵ともによく整備されたもので、東大寺本は、これらの八幡縁起に基づいて製作されており、奥書によって、詞公順筆、絵宗軒筆で、天文四(1535)年になったことがわかる由緒ある絵巻である(注8)。

2)「八幡縁起絵巻」(軀淵八幡神社本)は紙本、白描の絵巻である。八幡縁起絵巻は、八幡神(八幡大菩薩)の誕生物語と、その八幡神が宇佐八幡宮(大分県宇佐市)から石清水八幡宮(京都府八幡市)に勧請された話からなる。特に応神天皇(八幡神)の母である神功皇后に関する物語が過半を占めている。筆の運びは軽快で、人物や動物が生き生きと描き出されている。軀淵八幡神社の縁起絵巻は随所にユーモラスな表現が見られる。

2. 新田岩松家粉本「神功皇后縁起絵巻」

群馬大学所蔵新田岩松家粉本29紙(絵28紙、詞書1紙)は、第2系統に分類されている「神功皇后縁起絵巻」の原寸大の精巧な未完成の摸写の一部である。原本は彩色されているが、新田岩松家粉本は白描で彩色はされていない。本格的な彩色画を製作するための下書き状態の製作途中のままである。合戦の場の人物像は丁寧に模写されている。全体として最初ほど丁寧に描かれているが、後半ほど写し切れていない部分(人物の眼鼻、樹木、遠景など)が次第に多くなる。誉田本と見比べてみると、誉田本系統の絵巻を忠実に写していることが明らかである(対比資料参照上段に誉田本、下段に新田岩松家粉本を対比)。誉田本上巻18紙の詞書は、内容には大差ないが、詞書も書風ともに異なる。手本にしたと推測される神功皇后絵巻(誉田八幡宮

所蔵。誉田本)は、永享五(1433)年將軍足利義教が誉田八幡宮に奉納したもので、紙本着色の絵物語である。上巻は詞・絵ともに各五段、縦35.5cm、詞(12紙)と絵(24紙)の全長が36紙、2,264.4cm、下巻は詞(12紙)・絵(23紙)ともに各五段、縦35.3cm、全長が35紙、2,139.9cmで、上巻より少し短く、下巻末に將軍義教の奉納奥書がある。また、上・下巻の奥書には、寛文六(1666)年林鐘(陰暦6月)中旬に狩野探幽が付した極書がつけ加えられている(注9)。

神功皇后絵巻(誉田八幡宮所蔵 誉田本)の上巻五段、下巻四段の構成を示す。

上巻

- 第一段 仲哀天皇が崩御し、代わって神功皇后が出征する。
- 第二段 老翁が大牛を海中へ投げ入れる。
- 第三段 老翁が座礁した船を押し出し、海中の岩を射通す。
- 第四段 老翁が舞楽を演じて安曇磯良を呼び出し、竜王の協力を求める。
- 第五段 干満二珠で異国の軍勢を撃破する。

下巻

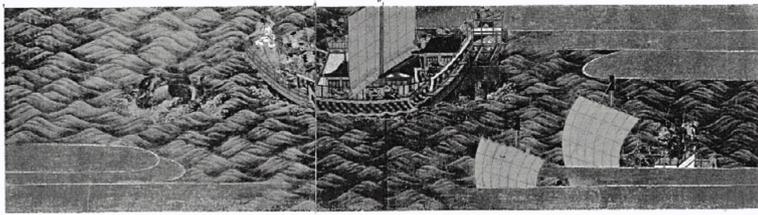
- 第一段 異国へ上陸。異国と和睦する。
- 第二段 応神天皇が誕生する。
- 第三段 応神天皇が崩御後、八幡大菩薩となり、宇佐・箱崎宮に祭られる。
- 第四段 鍛冶をする翁が竹葉の上に八幡大菩薩として現れる。

3. 新田岩松家粉本(残存部分)と神功皇后縁起絵巻(誉田本)との比較・照合

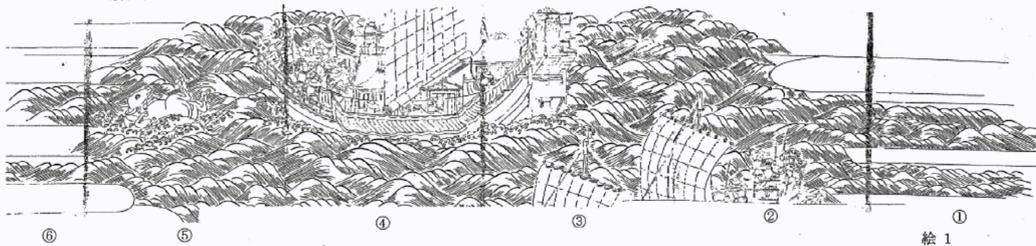
法量を比較すると、新田粉本は、縦35.5~36.0cm、神功皇后縁起絵巻は、縦35.5cm

神功皇后縁起絵巻（誉田本）

〈 対比資料 〉



新田岩松家粉本



絵 1

絵 1

である。各一紙の横幅は、誉田本と異なる。新田岩松家粉本は、誉田本の等寸大の模写途中の白描画である。新田岩松家粉本の残存紙と神功皇后縁起絵巻に相当する箇所とを照合すると次のようになる（対比資料参照）。

- 1) 新田岩松家粉本 絵1 (1・2・3・4・5・6紙) 神功皇后縁起絵巻（誉田本）上巻（第二段）16・17紙

〈老翁が大牛を海中へ投げ入れる。〉

備前の泊りについたとき、沖のほうから丈十尺ばかりの大牛が現れて皇后の乗船に襲いかかってきた。その時、彼の翁が牛の角をとって海中に投げ入れた。牛が仰向けに海上に投げ出された形で描かれている。
相違点：左右の引霞の形状が異なる。

- 2) 新田岩松家粉本 絵2 (1紙)

〈詞書〉

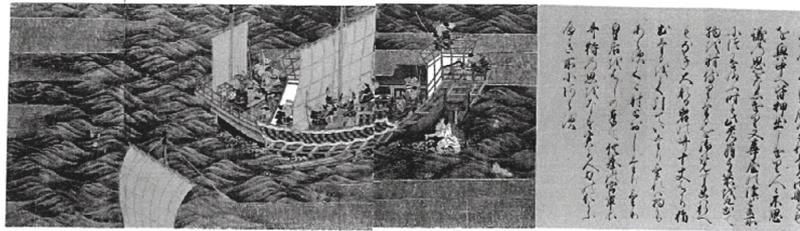
被為召候御舟共ヲ沖江押出シけり人々不思議乃思ひ越なしけり 亦葦屋の津と云所

ニつかせ給ふ時に此老翁弓箭ヲ取り出物ヲ射侍るヲ御覧すれハ行くことなき大なる岩之先十丈斗指出たるを 能引て射りけり物にもあらず とく射通シたりける皇后を奉始供奉の官軍何も奇特の思ひヲなす誠人力の可及所ニあらず

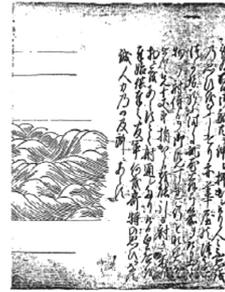
- 神功皇后縁起絵巻（誉田本）上巻（第三段）18紙

只一人して 皇后めされる御船ともを興中へ皆押出しけり 人々不思議の思をなしけり 又葦屋の津と云所につかせ給ふ時に此老翁弓箭を取て 物を射侍りけるを御覧すれハ 行へもなき大なる岩の崎十丈ばかり指出たるを よく引ていたりけりハ 物にもあらず くと射とおしたりけり皇后をはしめ奉て 供奉の官軍等奇特の思をなす 実に人力のおよふへき所にあらず
相違点：新田岩松粉本には、誉田本には描かれていない、帆にむしろのような模様が描かれている。

神功皇后縁起絵巻 (菅田本)



新田岩松家粉本



絵 2

絵 2

神功皇后縁起絵巻 (菅田本)



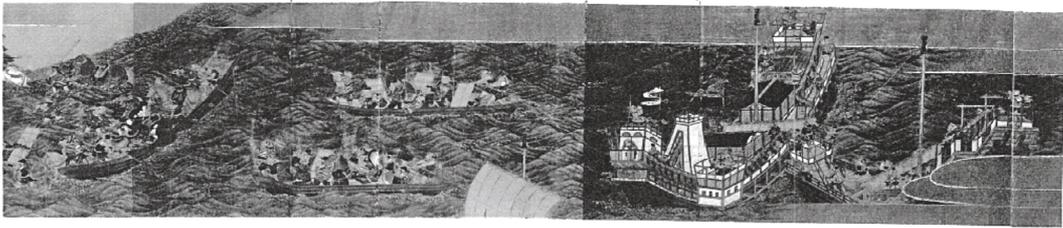
新田岩松家粉本



絵 3

絵 3

神功皇后縁起絵巻（誉田本）



新田岩松家粉本

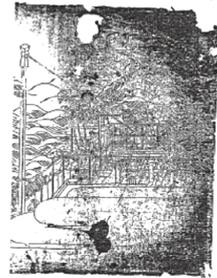


④



③

②



①

絵 4

絵 4

3) 新田岩松家粉本 絵 2 (2・3紙)

神功皇后縁起絵巻（誉田本）上巻（第二段）19・20紙

（欠損部分 兵船が門司関の近くにある大江が崎というところに着いたとき、たまたま引潮のために座礁してしまった。このとき、老翁がただ一人で兵船を力いっぱい沖の方に押し出したので、無事進むことができた。）

左方に余白を充分とって、大海原の広大な様子を示している。大きくうねる波を、筆線を何度も重ねて描き表し、これが兵船のふちまで押し寄せて、白い波頭をみせている。

4) 新田岩松家粉本 絵 3 (1・2紙)

神功皇后縁起絵巻（誉田本）上巻（第四段）26・27紙

〈住吉明神、せいこの舞を舞って、安曇磯良を海底から召し寄せる。〉

筑前国の香椎の浜で、舞楽を見物する重

臣たち。ここでは、冠に直衣という服装で描かれている。浜辺には龍頭の幟に旗がひるがえり、鉾がたてられている。

（欠損部分 海中にせり出した舞台上で舞装束をつけた老翁が一人で舞楽を演じている。）

舞楽が好きな磯良は、老翁がせいこの舞（舞楽）の舞いを舞い始めると、白い浄衣の袖で顔を覆った磯良が亀に乗って現れた。

（欠損部分 神功皇后、磯良が竜宮から持参した干満二珠を使用して新羅軍に圧勝する。干上がった陸戦と、海におぼれる敵兵、さらに敵船に切り込む日本勢など、にぎやかな戦闘場面が展開。）

相違点：新田岩松家粉本では、「幡」が3本、誉田本では、4本。

5) 新田岩松家粉本 絵 4 (1・2・3・4紙)

神功皇后縁起絵巻（誉田本）下巻（第一段）3・4・5紙

〈兵船異国に到着。異国と和睦〉

神功皇后縁起絵巻 (誉田本)



新田岩松家粉本



②



①

絵5 1/3

絵5 1/3

神功皇后の船団が、異国の浜に到着したところ。小舟に武士や軍馬を乗せ、陸地に向かう。画面に緊張感がただよっている。相違点：新田岩松家粉本 1紙 上部に波 誉田本には無い。4紙 左下の船の舵の形状に違いがみられる。

6) 新田岩松家粉本 絵5 (1・2・3・4・5・6・7・8・9紙)

神功皇后縁起絵巻 (誉田本) 下巻 (第一段) 6・7・8・9・10紙

浜辺近く漕ぎ寄せた小舟から武士たちが下り、隊列を整える日本の軍勢、前方には鎧武者が二列に並んで座る。後方はまだ整列せず、弓の手入れをしている者もいる。(欠損部分 神功皇后、新羅王の前で、石に弓で戦勝の銘を刻む。先頭に立つ神功皇后。鎧甲に身を固め、太刀をはき、右手に弓を持っている。)

神功皇后に対して、異国の王や重臣たち

が大勢出てきて、和睦の意を表しており、その後ろには、敵軍の武将たちが控えている。宮廷の楼門から、この様子をうかがう重臣。頭に冠を着け、手に笏を持っている。大陸風の衣装や城門に、異国的な様式が描写されている。宮廷のなかから、一大事を聞きつけて、年老いた大臣も手を引かれて出てきた。髪をみずらに結った童子が前方を指でさし示し、何やら説明している様子。相違点：新田岩松家粉本 2紙 上部の岩や樹々の描写がおおきく異なる。岩石の皺や点苔を施した描写やや雑、また趣も異なる。

7) 新田岩松家粉本 絵6 (1・2・3・4紙)

神功皇后縁起絵巻 (誉田本) 下巻 (第二段) 13・14・15紙

〈神功皇后凱旋し、筑前国のうみの宮で応神天皇を出産する。応神天皇が誕生。〉

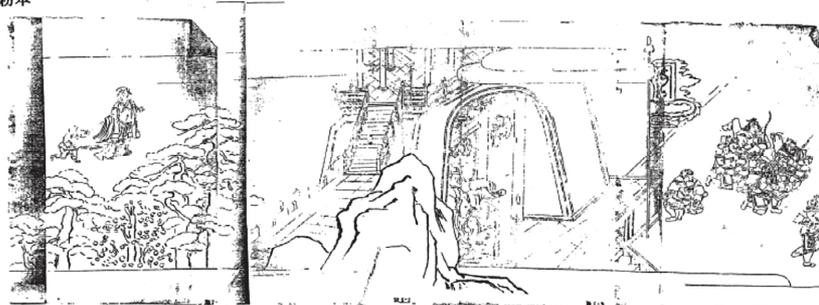
筑前に帰還してのち、神功皇后が鵜の羽

山中 康行：新田岩松家「神功皇后縁起絵巻粉本」について

神功皇后縁起絵巻（菅田本）



新田岩松家粉本



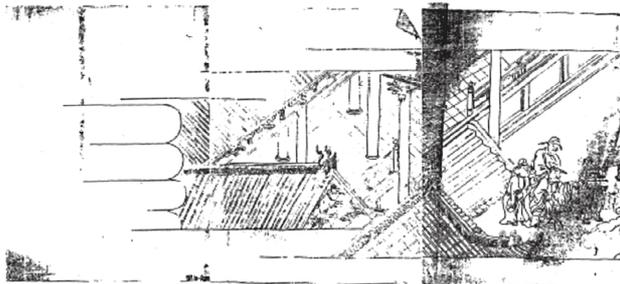
絵 5 2/3

絵 5 2/3

神功皇后縁起絵巻（菅田本）



新田岩松家粉本



絵 5 3/3

絵 5 3/3

で屋根を葺いた産屋で、皇子（後の応神天皇）を出産した。産屋のまわりには、衣冠束帯姿の重臣たちが描かれている。

筑前の海の風景。ここから皇子の一行は、海路紀伊国に向かった。大和絵の遠山が連なり、穏やかな海面に小舟が浮かんでいる。岸边には漁師の家も見える。

武内の大臣に守られて海路帰郷した皇子が、紀伊国に到着したところ。浜に質素な行宮らしい建物が見え、一行がそこに近づいている。

4. 新田岩松家「神功皇后縁起絵巻粉本」と 誉田本「神功皇后縁起絵巻」

二つの資料の法量（料紙の縦の長さ）が同じである。絵の図様が、建物・人物・樹木・船などの配置がまったく同じである。帆、波頭、霞といった些細な部分で新田岩松家粉本は、誉田本とは少し異なるが、非常に正確に写しとられている。このことから、新田岩松家に残された神功皇后縁起絵巻の粉本は、誉田本系統の精巧な模写途中のものであるといえる。神功皇后縁起絵巻 二巻が誉田八幡宮に奉納された永享五（1433）年、同じ詞書で同様の内容を持った縁起絵巻が、宇佐八幡宮（大分県宇佐市）と石清水八幡宮（京都府八幡市）に奉納されている。前者は江戸時代に、後者は昭和22（1947）年の神庫の火災で、ともに消滅している。消失した石清水本には、白黒図版のコロタイプ版が残されており、引霞のつけ方、人物の数、建物の細部描写を比較すると誉田本と同一筆者と認めがたいということである（注10）。このことから、誉田本系の絵巻を模写したと推測できる。所蔵先は、関東の地から遠方であることから、直接写したものか、模写した絵巻を手本にした

かは明確にできないが直接模写した確率が高い。

新田岩松家粉本に「神功皇后縁起絵巻」（誉田本）の模写が残された経緯としては、源氏の血統、武家の棟梁（源氏）としての新田岩松家の八幡信仰と無関係とは考えられない。新田の殿様が模写したものかどうか、疑問があったが、岩松孝純の日記（源孝純年譜草稿）に記録があることを落合群馬大学名誉教授から情報をいただきました。お礼を申し上げます。上毛からはるか離れた関西の大阪府羽曳野市（誉田八幡宮）または、京都府八幡市（石清水八幡宮）や、九州の大分県宇佐市（宇佐八幡宮）の神社の所蔵資料の情報がいかんにして入手できたのか、江戸末期の情報流通の一端をうかがえる資料でもある。

注

- 1 新田岩松家粉本とは、1961（昭和41）年に、新田岩松家から群馬大学附属図書館に寄贈された1,265点の日本画の下絵（粉本）のコレクションである。群馬大学附属図書館所蔵 新田岩松家旧蔵粉本図録」群馬大学附属図書館所蔵資料シリーズ 2003.3.14発行
- 2 群馬大学図書館館報 LINE No.286 4p 富澤秀文教授が《三韓征伐》と記載。
- 3 神功皇后と応神天皇の事跡を中心に描かれている。
- 4 八幡神：日本で信仰される神で、清和源氏をはじめ全国の武家から武運の神「弓矢八幡」として崇敬を集めた。誉田別命（ほんだわけのみこと）とも呼ばれ、応神天皇と同一とされる。
- 5 『新修日本絵巻物全集』別巻第2 18p 1981 角川書店
- 6 鞆淵八幡神社：和歌山県紀の川市鞆淵
- 7 誉田神社 大阪府羽曳野市誉田3丁目2-3にある神社。主祭神は応神天皇で、応神天皇陵のすぐ南に鎮座する。八幡神が源氏の氏神とされることから、源氏姓を名乗る歴代の将軍をはじめ、武家の信仰を受けた。

- 8 『新修日本絵巻物全集』別巻第2 24p 1981
角川書店
- 9 『絵巻物集』羽曳野市史 文化財編別冊 132p
1991.3 羽曳野市史編纂委員会編 狩野探幽の奥書
には、「神功皇后縁起絵土佐光信真筆也」とある。
- 10 同上 140p

参考資料

1. 『絵巻物集』羽曳野市史編纂委員会編 羽曳野
市 1991.3
2. 八幡縁起絵巻 特別展 歴史のなかの“ともぶ
ち” — 鞆淵八幡と鞆淵荘 — 和歌山県立図書館
平成13年10月6日～10月25日
3. 『新修 日本絵巻物全集 別巻2』編集担当島
田修二 1981年 角川書店



新田岩松家粉本 4-④